

「火山災害対策特別調査委員会」活動報告書

委員会設置期間：平成 28 年度～平成 29 年度

2018 年 3 月

日本建築学会火山災害対策特別調査委員会

目次（ページ番号要確認）

第1章 序	1
1.1 本特別調査委員会の位置付け，目的，目標とする成果	3
1.2 文科省次世代プロジェクトとの関連，位置付け	5
第2章 火山噴火に関する基礎知識と用語	7
2.1 基本用語の定義	9
2.2 噴火現象と堆積物	10
2.3 噴火の種類	17
2.4 降積雪現象とのアナロジーで考える降積灰現象	20
2.5 建築・都市に関わる用語の定義	22
第3章 過去の火山災害と建築	25
3.1 日本における過去の火山災害	27
3.2 口永良部島 2014-2015 年噴火	40
3.3 有珠山 2000 年噴火	43
3.4 阿蘇山 2016 年噴火における降灰調査	59
3.5 阿蘇山 2016 年噴火における阿蘇山ロープウェイ火口西駅被害調査	63
3.6 最近の火山災害と建築学への期待	77
第4章 建築・都市に対する火山災害のハザード	79
4.1 富士山噴火と想定されるハザード	81
4.2 確率論的降灰ハザード評価	90
4.3 ハザード情報の公開状況	98
第5章 建築・都市へのインパクトとリスク	105
5.1 積灰荷重に対する建築物の安全性の検討	107
5.2 降灰が生活に与える影響	110
5.3 リスクの視点から考える火山災害対策	122
第6章 建築に対する具体的対策事例	129
6.1 鹿児島市立病院	131
6.2 克灰住宅	138
6.3 避難シェルター	142
6.4 鹿児島市における健康被害対策	164

<関連資料>

- 資料1. 特別調査委員会設置提案書
- 資料2. 阿蘇山噴火による降灰被害調査(速報)
- 資料3. 富士山宝永噴火と酒匂川 -石碑と遺構にみる水との戦いの歴史-
- 資料4. 2000年有珠山噴火災害による建築物の被害調査に関する考察
- 資料5. 2000年有珠山噴火災害による建築被害要因の分析
- 資料6. 克灰住宅
- 資料7. 雪荷重と積灰荷重
- 資料8. リスクマネジメント -不確かな未来への対応-
- 資料9. 低頻度巨大災害のリスクを定量評価する -合理的な「想定外」対策へ向けて
- 資料10. 日本の火山噴火の現状と低頻度大規模噴火に備えた研究のあり方
- 資料11. 電力の火山噴火対策について
- 資料12. 建築学会出版物における火山災害関連文献